



〈MODO工房〉  
那須塩原市青木27-2472  
☎090-3313-7023



群像(森) 2017 合板

最近10年くらいは、自然について思いを巡らせているという粕谷氏。“木が倒され、山が削られた場所に置かれるソーラーパネル。自然が姿を消していく気がして寂しい”。そんな思いが「森」をモチーフにした作品に繋がっている。



「国語にも算数にも正解はある。でも、美術には正解がない」。正解がなければ、不正解もないのがアートの世界。「だから、アートは自由で楽しいのです」と粕谷さんは続けました。完成した作品の良し悪しを考えるよりも、その過程を楽しんでほしいとの想いから、子どもたちへの指示はほとんどしないという。「心の声を聞き、素直にそれに従えば良い」との言葉からは、多くを教えず、そのため、彼のワークショップで与えられるのはテーマと少しの注意事項だけ。子どもたちはいやが応にも、自分で考えて、自らの作品と向き合わなければならぬ。「とにかく自由だと気づいてほしい。いかに発想を膨らませ、心を開くかが大切」と話し、「そのきっかけを与えることが僕の役割」と続けた。一番良くないのは、人のまねをしたり、見栄えが良いものを作ろうとする。と。「大学生くらいになると、そういう気持ちが出てくるんだよね」ととてもにこやかに話した。

自分と向き合うきっかけに

「創る側も自由なら、見る側も自由。いろんな捉え方、楽しみ方がある

02 教育 × アート

青木地区の雑木林にある「MODO工房」。創作活動の傍ら、大学で教鞭を執ってきた粕谷圭司さんのアトリエだ。長年にわたるボランティアなどの活動とアートに対する想いを紹介する。

「鑑賞時の向き合い方を尋ねると、そう答えた粕谷さん。高い評価を受けているからとか、みんなが良いと言うからではなく、自分で作品を判断することが大切だと彼は強調する。「見る側も自分の心の声を聞いて、本当の目で作品を見て、好き嫌いを決めれば良い」と話し、たくさんの作家のいろいろな作品に触れることを勧めてくれた。

忙しなく過ぎる日々のなかで、自分の内面と向き合う時間はあまり無いかもしれない。周囲に合わせることも多い一方、自ら判断することは少ないかもしれない。「でも、アートと向き合う時間は、そのきっかけを与えてくれる」と魅力を語り、「より気軽に鑑賞できるようにハードルを下げたい」と抱負を話してくれた。

エピソード

雑木林の中の手作りのアトリエ。そこには、ブランコや鉄棒などの遊び場も併設されている。「いつでもおいで。ここは自由な場所だから」。粕谷さんはワークショップの最後にそう言葉をかけていた。

50年以上にわたり没頭してきた創作活動を「生き様」と語った彼。木々に囲まれた静かなアトリエで、今も心の声を聴きながら、創作活動に励んでいるに違いない。



創作の傍ら子どもにアートを

「ダメにならないように、水面までサラサラと石膏を加えるんだよ。雑木林の中にひっそりと佇む一軒のアトリエで行われた、子どもたちとのワークショップ。教えているのは、35年間の長きにわたり大学で教鞭を執ってきた彫刻家の粕谷圭司さんだ。創作活動に没頭できる環境を求め、手つかずの雑木林が気に入る青木地区に土地を購入。森を切り拓くところから、家を建てるまでの全てを自らの手で行った。大学での講義と自らの創作活動の傍ら、10年以上ボランティアで小学校の授業で先生を務めてきた。専門とする彫刻を短時間で教えるのは難しいため、取り入れたのが「風船たまご」という石膏を使っている作品作り。「出来上がった瞬間の子どもの表情が良いんだよ」と、このワークショップの醍醐味を教えてくれた。

MODO工房  
かすや けいじ  
粕谷 圭司 さん



ワークショップ序盤は緊張した様子の子もたちも、完成した作品を手にとるとご満悦な表情に。「どんなものができるかわからず、ドキドキして楽しかった」とワークショップを振り返ってくれた。完全に丸い卵型に仕上げるのは難しかったようで、「家に帰って、もう一度挑戦したい」と意気込む子もいた。